

日本留学考试·日语读解 题型简要

①(A)问题：出题频率 1~3 题。留考阅读最高难度及最重要题型。

需要较为高度的逻辑思维才能准确的推测出正确答案。一般不需要通读全文，能否抓住(A)前后的逻辑关系是解题时的重中之重。(A)问题是能否拿到阅读高分甚至满分的关键。同时，学习(A)问题时所用到的逻辑思维，将成为解读留考最频出题型一焦点问题及未来各大学校内考阅读时的基础，需要高度重视。

②主旨问题：出题频率 1~3 题。留考阅读最低难度题型。

由于只需要找出文章的主旨通常不需要通读全文，掌握解题技巧后基本上沦为送分题目，故近年出题频率有下降趋势。由于难度简单，正确率高，更要确保做题正确率才能万无一失。

③焦点问题：出题频率 10 题以上。留考阅读最频出题型。

焦点问题通常在设问中用下划线或括号，引用文章中的一个词或一句话，要求考生在文中寻找对引用部分相同意思的替换，或者造成引用部相应结果的理由。简单~中等难度的焦点问题不需要通读全文，通常阅读引用部周边，使用课堂上教授的解题技巧和逻辑思维可以迅速找到答案。同时，焦点题目有时也会出现 1~2 道高难度题目来考验考生的真实阅读实力。这种题目需要在通览全文并抓住主旨的前提下解题。

④一致问题：出题频率 1~6 题。留考阅读唯一没有技巧的题型。

一致问题要求考生在四个选项中，寻找与文章内容相符或不符的选项。由于不确定正确答案会出现在文章中的位置，只能在提前阅读选项后通读全文来进行判断。唯一要注意的是作者没有在文中提到的内容绝对是错误的，切勿利用常识加入自己的解读和想象解题。

综述

留考阅读是与时间的胜负。考生需在约 35 分钟的时间内（理论考试时间为 40 分钟，但通常涂答题卡需要 3~5 分钟的计算）处理 25 道题目，逐字逐句阅读全文后再解题物理上说绝无可能。这是留考阅读与能力考试最大的不同。留考阅读检验的并不是考生真实的日语实力，而是进入大学后在学习生活中所必须的高效率准确处理文字情报的能力。

细化到题目，由于一致问题没有技巧，通常需要逐字逐句的阅读，为了留出充足时间来面对一致问题，题型①~③除去高难度题目，标准难度每题均需要在 30 秒~1 分钟内解决。

为此，课堂上将使用一贯的解题技巧及逻辑思维来解说留考历年真题，帮助同学们在上述时间内高速，有效，精准的解题。

問3

次の文章の（ A ）に入るものとして最も適当なものはどれですか。

他人と接するうえで、怒りをおぼえることが少なからずある。社会一般には、人間関係を円滑に保つために、怒りをあらわにせず、気持ちを抑え、穏やかに対処するのが良いとされる傾向がある。しかし、それではまた同じ状況に遭遇し、同じ怒りをおぼえることは目に見えている。根本的に問題を解決するためには、やはり（ A ）。もちろん、ただどなったり、大声を出したりするだけではだめで、自分が何に怒りをおぼえるのかを言語によって相手に説明し、それを理解してもらい、やり方を変えてもらうようにしなければならない。

1. 怒りの気持ちを抑える必要があるのだ
2. 穏やかに対処する必要があるのだ
3. 怒りを感じない訓練が必要なのだ
4. 怒りをあらわにする必要があるのだ

問7

次の文章の（ A ）に入るものとして最も適当なものはどれですか。

私たちは、本にかこまれて暮している。しかし、本当に必要なのは、たくさんの本を次つぎと読み、それを本棚に並べておくことだろうか。

本を読むのはいい。読むのはいいが、その本を、わざわざ保存しておく必要はない。最近、私はそう思うようになった。一冊の本を読んで、いやでも頭の中に残る一行があれば、それで充分なのだ。忘れてしまうような内容は、もともと縁がなかったのだと諦める。

一冊の本の中の一行が頭に残るのは、なにげなく読んだ言葉が、^{きり} 錐をもむようにこちらの魂に突き刺さってくるときである。そういう言葉は、（ A ）。赤線を引いたり、メモをとったり、いろんなことをしても忘れるものは忘れる。そういうものだ。それは、ひょっとして本当は必要がないものだったのかもしれない。

（五木寛之『知の休日』集英社）

1. 忘れまいと努力しなければならないものだ
2. あまり覚えておく価値のない言葉だ
3. 忘れようとしても忘れられるものではない
4. できるだけ早く忘れてしまうにかぎる

問3

次の文章の（ A ）に入るものとして最も適当なものはどれですか。

漫画の中で、次のようなシーンを見ることがある。

ある人物が、何かに熱中しながら、歩いたり走ったりしている。熱中するあまり、足元の地面が途切れ、自分が空中に留まっていることに気づかない。やがてそれに気付いた瞬間、その人物は落下を始め、地面に激突する。

現実では、その人物が自分のおかれた状況を知っていようがまいが、自然法則に従ってただ落ちていくだろう。

しかし、この漫画の中では（ A ）

この現実とのギャップと、法則が働き始めた時の登場人物の慌てぶりにおかしさが生まれるのである。

1. 自然法則は登場人物が自由に変えてもかまわない。
2. 自然法則を忘れている間はその法則が適用されない。
3. いかなる状況においても自然法則がそのまま働いている。
4. 何ごとも自然法則とは正反対の法則に従って動いている。

問 8

次の文章の（ A ）に入るものとして、最も適当なものはどれですか。

かなり人生を生きたおかげで、私はマイナスにもプラスがあり、プラスにもマイナスがあることを十分にまなんだ。たとえば半年のあいだ私は病気がちだったが、この肉体的なマイナスのおかげで自分の人生や他人の苦しみを察することが多少はできるようになった。かえりみると病身でなければ私は傲慢な男でありつづけていたかもしれぬ。私はある面で臆病だが、この臆病さゆえに仕事の準備などに慎重であることもたしかだ。マイナスにもプラスがありプラスにもマイナスがあるのである。

だから私は自分の能力や性格にコンプレックスを持っている若い人には、その欠点やコンプレックスをプラス面に変えることを教えている。口下手な人間がいくら上手にしゃべろうとしても困難である。「口下手」という欠点に悩んでいるなら（ A ）。

（遠藤周作『春は馬車に乗って』文藝春秋）

1. 「聞き上手」に変ればよい
2. 「話し上手」に変ればよい
3. なるべく人に会わなければよい
4. なるべく人と話すようにすればよい

問 8

次の文章の（ A ）に入るものとして、最も適当なものはどれですか。

「棚からぼた餅」と言えば聞こえが悪いが当初の狙いとは違った思わぬ発見をする特異な才能を「セレンディピティ」という。セイロン（スリランカ）の旧名セレンディブの三王子がそうした能力を持っていたというおとぎ話からできた言葉だ、と辞書にあった。…（略）…

このほど、「創造性とは何か」をテーマに京都市で開かれた「ノーベル賞百周年記念国際フォーラム」でも、この才能が話題になった。参加者の質問を受けた利根川進博士は、パスツールの言葉を引用し、「偶然発見したように見えても、実際には、それまでの十分な準備があったからこそだろう」と述べた。

卵からヒナが孵るには、内側でいつ出ても生きられるくらいに育てることが不可欠だ。セレンディピティは殻を破る最後の一突きに当たるのではないか。

「たまたま発見できた」「幸運でした」と科学者が話したとしても、真に受けてはいけない。（ A ）。

（松本弘「今日のノート」読売新聞2002年4月2日）

1. そこに至るまでの努力とは関係なく幸運や偶然の発見はやってくるものなのだ
2. そこに至るまでの努力を抜きにして幸運や偶然の発見はやってこないのだ
3. そこに至るまでの努力がなくても幸運や偶然の発見はやってくるものなのだ
4. そこに至るまでの努力をしても幸運や偶然の発見はやってこないのだ

問10

次の文章の（ A ）に入るものとして、最も適当なものはどれですか。

人体の免疫システムは、バクテリアやウイルス、寄生虫といった感染源に対して抗体を作ったり、特定の細胞を反応させることで、感染防御を行っています。

体の中に入ってくる抗原は実に多く存在するため、それに対応する免疫システムは、10の15乗に達する多様性を持っています。（ A ）。

すべてを発揮すると、自分に反応して自分自身をやっつけることとなります。また、外来異物に対して免疫応答したために、死に至ることもあります。

（笹月健彦「21世紀医療を考える」朝日新聞2002年3月29日広告）

1. しかし、免疫システムが持つ多様性を、すべて発揮すればいいというわけではありません
2. だからといって、免疫システムが持つ多様性を、すべて発揮しないわけがありません
3. ですから、免疫システムが持つ多様性を、すべて発揮しなければなりません
4. とはいえ、免疫システムが持つ多様性を、すべて発揮できないかもしれません

問6

次の文章で筆者が最も言いたいことはどれですか。

「心」はどこに存在するのだろうか。今日では「心は頭が支配する。心は頭、すなわち脳に宿る」というのが定説だ。つまり、脳がうまく働いていないと、心もうまく働かないことになる。脳がうまく働くためには、脳に必要な栄養が十分いきわたっている必要がある。脳に必要な栄養とは、人間が生きていく上で必要とされる炭水化物、タンパク質、脂肪、ビタミン、ミネラルで、これらの栄養を我々は食べ物から摂っている。その栄養が不足したり、摂りすぎたり、必要でない悪いものを摂ったりすると、体だけでなく、脳、すなわち心もうまく働かなくなるのだ。この一見あまり関係ないと思われる「食事」と「心の健康」との関連性については、かなり前から、アメリカや日本などで調査や研究が続けられてきている。そして、多くの調査、研究、実験報告から毎日の「食生活」が犯罪など反社会行動の一因になりうることが確かめられてきている。「食事」は体だけでなく、「心」とも密接な関係があるということなのだ。すなわち毎日の食事が、体と心の健康に大きくかかわっているのである。

(鈴木雅子『図書館版 新・今「食」が危ない』学習研究社)

1. 心は脳に存在する。
2. 栄養を摂りすぎると、脳がうまく働かなくなる。
3. 食生活は犯罪の原因にもなる。
4. 食事は心の健康にも大きく影響する。

問16

次の文章で筆者が最も言いたいことはどれですか。

この自然界に実際に起っている現象は、決して再現可能ではないのである。同じことを二度実験してみても、同じ結果が出るとは限らない。一枚の紙をある高さから落してみても、同じ落ち方は、二度とはしない。しかしそれを再現不可能としまえば、もはや科学の入る余地がなくなってしまう。それでこういう場合には、自然界にはちゃんとした法則があって、再現可能なのであるが、何かほかの理由で、同じ結果が得られなかったのだと考える。それでほかの妨害を除いてやれば、すなわち外界の条件を一定にしてやれば、同じ現象が起るはずだとするのである。ほかの条件をなるべく一定にして、ある現象を起させてみる。それが実験なのである。

(中谷宇吉郎「科学の方法」岩波書店)

1. 自然科学の実験では、再現が不可能であるということ
2. 自然科学は、不可能なことを可能にするということ
3. 実験の前に自然界の現象について知っておくべきであるということ
4. 自然科学の実験は、一定の条件の下で行われるということ

問1

次の文章で筆者が最も言いたいことはどれですか。

私たちは、科学と技術について考えるとき、両者をきちんと区別しておくことが大切だ。科学は本来、生命の本質を探ったり、宇宙の起源をたずねたり、ものごとの真実の姿を探求して、その知識を体系化して行くことである。したがって科学そのものは人間の知的欲求を満たすものであって、それ自身、いいとか悪いとかいう価値観の対象になるものではない。

一方技術は、科学的成果をもとに、人間にとって必要な製品を生み出したり、さまざまなシステムをつくり出したりする方法である。そこには当然価値観というものが入り、どんな技術を用いるべきかについては、いろいろな見地から検討して判断し、きびしく選択しなければならない。

日本人は往々にして科学と技術を混同して考える傾向があり、科学技術という一つのことで表現するが、これは注意した方がよい。

(読売新聞編集局編『ノーベル賞10人の日本人 創造の瞬間』中央公論新社)

1. 技術を価値観の対象としてはならない。
2. 科学と技術は一つとして考えるべきではない。
3. 科学的成果はきびしく検討すべきものだ。
4. 科学に比べて技術には、あまり価値がない。

問11

次の文章で筆者が最も言いたいことはどれですか。

私は暗記はあらゆる勉強の前提条件だと思っている。… (略) …

主要な概念、主要な理論、主要な事実を記憶しているがゆえに、ある状況におかれたとき、多分こういうわけこうなったのであろうと解釈（思考）できるし、多分*かくかくの処置をすればかくかくの結果になるであろうと推論（思考）もできる。つまり考えるという作業は、あるていどの概念・理論・事実を記憶しているから可能なのである。考えるとは頭のなかで、概念と概念を組み合わせてみたり、事実と概念をつなぎあわせてみたり、理論から仮説を推論してみたりという試行錯誤を繰り返している状況のことである。したがって何の知識もストックしていなければ考えようがない。

(国分康孝【〈自己発見〉の心理学】講談社)

*かくかく：このような

1. 暗記することをやめると創造力が高まる。
2. 暗記ばかりしていると考える力がつかない。
3. 暗記しなくても物事について考えることはできる。
4. 暗記した知識がないと物事を考えることはできない。

問17

次の文章で紹介されている企業が「ものづくり学校」を開設した目的として最も適当なものはいずれですか。

ある日本の大手企業が、海外で「ものづくりの学校」を開設した。この企業ではこれまで、海外各地にある工場がそれぞれの従業員を対象に、担当する生産ラインで必要になる技術の研修のみを行っていた。しかし今回、大規模な研修施設を建設し、集中研修を始めた。

ここで研修を受ける従業員は、6か月の間、生産ラインから離れ研修に専念する。ここでは、ものづくりの基礎的技術のほか、生産ラインの保全・補修技術も教え込む。このように、工場内の作業の全体像を把握させることで、研修を終えて生産現場に戻った従業員が、現場の問題点や改善策を考えられるようにする。日本の本社の力を借りずに自力で競争力の向上が図れるようにすることを目指している。

1. これまで工場ごとに異なっていた技術を統一すること
2. 担当する作業をする上で必要な技術を身に付けさせること
3. 自発的に生産現場の改善ができる人材を育てること
4. 自力で生産ラインの保全・補修ができるようにすること

問5

次の文章で筆者は、家族というものはどうあるべきだと言っていますか。

いま、家族のなかに見出せるのは、「自分」と、自分以外の「異物」という視点だけです。親子のあいだ、兄弟間、夫婦間に共通の思いがない。家族と呼ばれるだけで十分ではないか、自分と年齢も価値観も一切が異なる人間とのあいだに、わざわざ共通の思いをもとうなどと無理することはない、と各々が言い訳するようになっていないでしょうか。

…(略)…自分の気分と居心地だけを優先させる、きわめて自己中心的な未熟な人間がなんと多いことでしょう。

家族が単に「異物」の寄せ集めであっていいはずがありません。互いのちがいを尊重しつつ、共通の思いをもう一度探るべきときです。家族間のコミュニケーションを回復することなくして、世の中にぬくもりは回復しえない、とさえ思います。

(日野原重明『生きかた上手』ユーリーク)

1. 全員が同じ価値観をもつべきだ。
2. 考えの共通点をさがすべきだ。
3. 互いに放任すべきだ。
4. まず「自分」の居心地を大切にすべきだ。

問7

次の文章で筆者は、社会科学が自然科学より困難な学問であるのはどうしてだと言っていますか。

社会科学が自然科学に比べて、はるかに困難な学問であることは、よく知られている。自然科学の研究対象は、歴史的、社会的に形成されたものではないが、社会科学の対象は、歴史的、社会的にどんどん変化してゆく。同じ国家といっても、古代国家と中世国家と近代国家では大いに違っている。近代国家でも、二つの世界大戦の前と後とはひどく変化している。また自然科学を研究する場合には、対象に対して距離を置くことが、余り困難でないから、普遍妥当的な認識をうることも、比較的容易である。ところが、社会科学の場合は、研究の対象が、単なる客観的条件ではなく、主観的人間活動がこれと不可分に結びついているから、距離を置くことは容易でなく、したがって、客観的な認識をうることも難しい。

(猪木正道『増訂 政治学新講』有信堂高文社)

1. 研究対象が、主観的人間活動と結びついているから
2. 歴史的変化の少ないものを研究対象としているから
3. 研究の対象から距離を置き、客観的に見やすいから
4. 研究対象が、客観的条件と結びついているから

問 6

次の文章では、「外来語」という単語は二つの意味で使われています。

このうち、狭い意味での「外来語」の説明として最も適切なものはどれですか。

日本語の中には、いろいろの外国語から入ってきて、日本語化した語が含まれている。これが日本語における外来語である。

古く日本語に入ってきた外国語として中国語がある。これは、その文字である漢字とともに、日本語の上に大きな影響を及ぼしており、固有の日本語である和語に対して漢語という。

これに対して、16世紀の半ば以降、日本語に入ってきて、これまた、日本語の上に相当の影響を与えた西洋諸国の諸言語がある。これを一般に外来語と呼んでいる。広義には、漢語も外来語の一種に含めて扱われる。ただ、漢語は、西洋語系の外来語に比していろいろの点で日本語化が進んでおり、西洋語系の外来語とは異なった性格を持っている面がある。

それで一般に日本語の語彙を語の出自からみる場合、和語・漢語・外来語の3つに分類することが行われる。この場合の外来語は、主として西洋語系の外来語を指しているのである。

(松村明「外国語と外来語」文化庁編『「ことば」シリーズ4 外来語』)

1. 外国語から日本語に入ってきたすべての語
2. 古い時代に中国語から日本語に入ってきた語
3. おもに西洋の諸言語から日本語に入ってきた語
4. 16世紀以前に日本語に入ってきた語

問5

次の文章の下線部「アウトプット形質」を持った作物はどれですか。

現在、市場に出回っている*組換え作物は、…(略)… 除草剤に枯れない作物とか害虫のつかない作物といったような、生産者である農家の人たちにとって直接利益をもたらす形質を導入したものが、ほとんどすべてです。このような、農家の人たちに利益のある形質は「インプット形質」とよばれます。インプット形質を導入された作物は、消費者や食品加工業者にとっては当面の利益はありません。…(略)… 一方、食糧や飼料など、最終製品の価値を高める形質は「アウトプット形質」とよばれます。たとえば食糧や飼料の栄養価を向上させるような形質です。

(岡田吉美【新植物をつくりだす】岩波書店)

*組換え作物：遺伝子組換え技術を用いて改良された作物のこと

1. 肥料が少なくてもよい作物
2. 水不足でも枯れない作物
3. 生長するのが速く育てやすい作物
4. 高い栄養価を含んだ作物

問16

次の文章の下線部「このつながりだけを人為的に太くしてやっている」とは、具体的にどうすることですか。

「栽培」とは、食料となる生物の力をフルに発揮させてやるために人が手助けをしてやることで、農業の場合には、水と肥料を植物に与えて、その成長をうながすわけです。魚の養殖は栽培漁業ともいいます。たとえば、高値で売れるハマチを育てるために、ハマチの稚魚をつかまえてきて*生簀いりすに入れ、そこに餌えさになるイワシなどの小魚を大量に補給してやります。こうして、ハマチが効率的に収穫できるのですが、もとになるハマチの稚魚と餌のイワシは自然の産物です。つまり人は、食物連鎖のなかの小魚を大魚が食うというつながりだけに着目し、このつながりだけを人為的に太くしてやっていることになります。

(江崎保男『生態系ってなに?』中央公論新社)

*生簀：取った魚などを生かして飼っておく所

1. ハマチを生簀いりすで卵から育てる。
2. ハマチに餌えさとしてイワシなどを与える。
3. イワシをハマチとともに育てる。
4. ハマチの稚魚をイワシに食べさせる。

問15

次の文章で述べられている「情報法」は、法律学の中でどのような分野ですか。

「情報法」というのは、幅広い領域と長い伝統を有する法律学の中でも、もっとも新しい分野の一つである。

およそ法というのは、いうまでもなく、人間の社会を規律する、もっとも基本的な枠組みの一つである。法は、われわれの日常のさまざまな場面で共通のルールとして働いているが、それが表だって目にみえることは必ずしも多くない。それは、法というものがある程度安定していることによって、人々の行動のごく自然なルールになっているからである。このように、法は、安定性をその本質としている。

しかし、現代は、そうした法にとっても、大変な変動の時期である。技術の急速な発展が法の姿に次々と変化を迫る状況が、現代社会において、環境や生命、医療をはじめ、多くの場面で認められる。そうした中でも、とくに情報をめぐる法制は、制度変化が求められている典型的な場面である。…(略)… 社会における情報の流れ方、情報の量や質の急激な変化が、これまでの法の前提におかれていた社会の現実を大きく変えはじめており、それによって、これまでの法が使いにくくなり、あるいは、新しい形の情報利用をすすめるための障害になり、そのことが法の変化を要求するようになってきている。

(濱田純一「第6章 情報法」田中一編『社会情報学』培風館)

1. 社会の流れに応じて変化を求められている分野
2. 法律学のなかでも、長い歴史と伝統を有している分野
3. 社会が変化しても、比較的安定している分野
4. 社会の現実を変える影響力をもっている分野

問15

次の文章の内容と合っているものはどれですか。

イカ漁といえば、夜の暗い沖合に漁船の集魚灯だけが白く輝いて見える光景を思い出す人も多いだろう。イカがいる水深100メートルの海中に光が届くようにイカ漁のランプはとても強く、宇宙からでも確認できるほどの明るさだという。が、今、消費電力が従来のランプの30分の1で済むという青色発光ダイオード（青色LED）の集魚灯の実験が始まっている。青色LEDの明るさは従来のランプに比べれば劣るが、青色の光は水深100メートルの海中にも届く。またイカの目は青色の波長に対する感度が高いという特徴もある。従来のランプと比べて購入費用は高いが、耐久性や発電のための燃料費を考えると、青色LEDでも採算は十分とれるという予測が出ている。実用化に向けて今も実験が行われており、近い将来、イカ漁の風景が変わりそうである。

1. 昔ながらのイカ漁の風景は変わってほしくない。
2. 青色LEDによるイカ漁は消費電力が大きい。
3. 収穫量を増やすために、明るい光で漁を行うほうがいい。
4. 青色LEDによるイカ漁の可能性が期待されている。

